

Asia Indicators

発表日: 2024 年3月 29 日(金)

オーストラリアの家計消費は引き続き堅調に推移(Asia Weekly(3/25~3/29))

~雇用回復の動きも追い風に幅広く小売売上高は拡大する動きが確認される~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

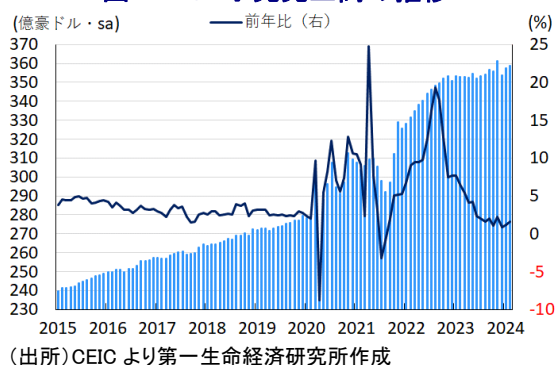
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/25(月)	(マレーシア)2月消費者物価(前年比)	+1.8%	+1.4%	+1.5%
	(シンガポール)2月消費者物価(前年比)	+3.4%	+3.3%	+2.9%
	(台湾)2月鉱工業生産(前年比)	▲1.1%	--	+15.6%
3/26(火)	(タイ)2月輸出(前年比)	+3.6%	+4.4%	+10.0%
	2月輸入(前年比)	+3.2%	+1.5%	+2.6%
	(シンガポール)2月鉱工業生産(前年比)	+3.8%	+0.5%	+0.6%
	(香港)2月輸出(前年比)	▲0.8%	--	+33.6%
	2月輸入(前年比)	▲1.8%	--	+21.7%
3/27(水)	(オーストラリア)2月消費者物価(前年比)	+3.4%	+3.5%	+3.4%
3/28(木)	(オーストラリア)2月小売売上高(前月比・季調済)	+0.3%	+0.4%	+1.1%
3/29(金)	(韓国)2月鉱工業生産(前年比)	+4.8%	+5.8%	+12.9%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[オーストラリア]~雇用環境の改善の動きを追い風に、家計消費は幅広く堅調な動きが確認される展開が続く~

28日に発表された2月の小売売上高(季調済)は前月比+0.3%となり、前月(同+1.1%)からペースは鈍化するも2ヶ月連続で拡大するとともに、中期的な基調を示す前年同期比の伸びも+1.6%と前月(同+1.2%)から加速するなど底入れの動きが続いている。食料品や日用品に対する需要は力強さを欠く推移をみせているものの、衣類や宝飾品などに対する需要は拡大の動きを強めているほか、百貨店売上高も底入れの動きをみせている上、外食需要も底打ちするなど家計消費を巡る動きは堅調に推移している様子が見えてくる。足下の雇用環境は大都市部のみならず、幅広い地域で改善の動きが続いていることも家計消費を下支えしていると捉えられる。

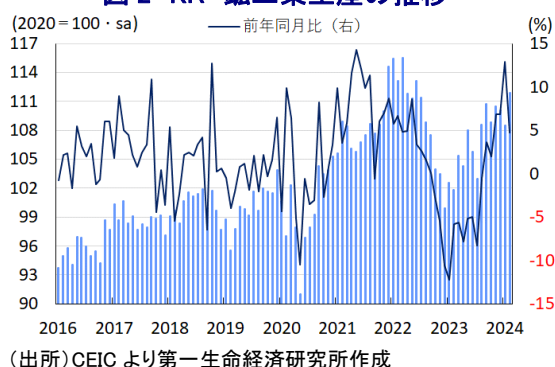
図1 AU 小売売上高の推移



[韓国]～主力の輸出財である半導体関連を中心に、幅広く製造業において生産が拡大する動きが確認される～

29日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+4.8%となり、前月（同+12.9%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+3.1%と前月（同▲1.5%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちしている上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。建設部門の生産は前月に大きく拡大した反動で減少に転じているものの、鉱業部門や製造業における生産拡大の動きが全体を押し上げている。主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、電気機械関連、自動車関連などで生産が拡大しているほか、こうした動きを反映して資本財や中間財など幅広い分野で生産が拡大する動きが確認されている。

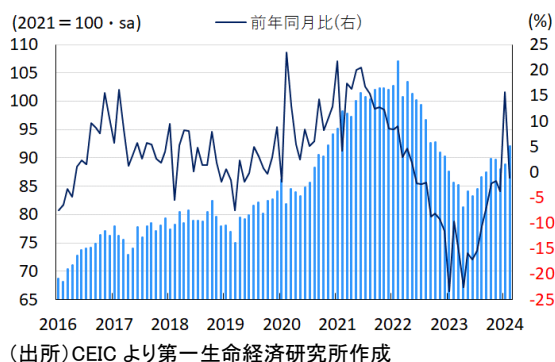
図2 KR 鉱工業生産の推移



[台湾]～主力の輸出財である半導体関連や電気機械関連、重化学工業関連が生産全体を下支えする展開～

25日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比▲1.1%となり、前月（同+15.6%）から2ヶ月ぶりに前捻を下回る伸びに転じている。ただし、これは前年と比較して春節（旧正月）連休の時期が大幅に後ズレしていることが影響しており、前月比は+3.51%と前月（同+1.02%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。鉱業部門の生産は弱含みする展開が続いているほか、製造業のなかでも食料品や縫製品など軽工業関連の生産は低迷している一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連のほか、重化学工業関連の生産は堅調な推移をみせており、生産全体を下支えしている。

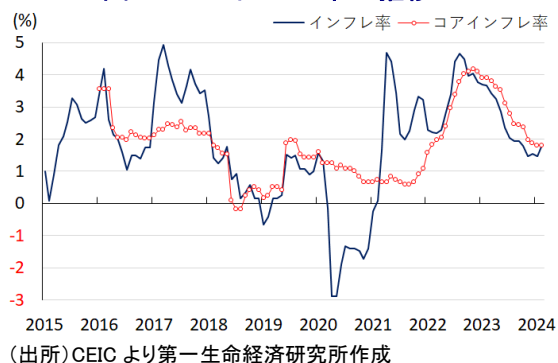
図3 TW 鉱工業生産の推移



[マレーシア]～生活必需品を中心にインフレ圧力が強まるほか、サービス物価にも押し上げ圧力が掛かる展開～

25日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+1.8%となり、前月(同+1.5%)から伸びが加速している。前月比も+0.53%と前月(同+0.15%)から上昇ペースが加速しており、昨年末以降の国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格が上昇しているほか、食料品価格も上昇が続くなど生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+1.80%となり、前月(同+1.79%)からわずかに伸びが加速しているものの、前月比は+0.24%と前月(同+0.30%)から上昇ペースは鈍化している。エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストが押し上げられているほか、国際金融市場における通貨リング安を反映して輸入インフレ圧力が強まる動きがみられるものの、財価格は総じて落ち着いた推移をみせる一方、経済活動の正常化が進んでいることを反映してサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるなど、インフレ圧力がくすぶる状況が続いている。

図4 MY インフレ率の推移



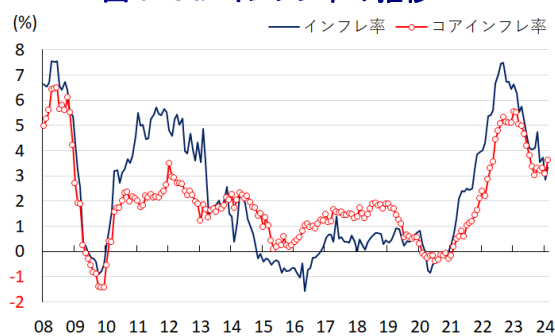
[シンガポール]～インフレ圧力が強まる動きがみられるなか、頭打ちが続いた鉱工業生産に底打ちの動きも～

25日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+3.4%となり、前月(同+2.9%)から加速して2ヶ月ぶりに3%を上回る伸びとなっている。前月比も+1.05%と前月(同▲0.67%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、穀物をはじめとする食料品価格の上昇が続いているほか、昨年末以降における国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格も上昇するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.62%と前月(同+3.08%)から加速しており、7ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比は+0.50%

と前月（同+0.60%）からペースは鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの上振れの動きを反映して幅広く財価格は上昇しているほか、経済活動の正常化の進展や雇用環境の堅調さを受けてサービス物価も上昇基調が続くなど、幅広くインフレ圧力が強まる動きがみられる。

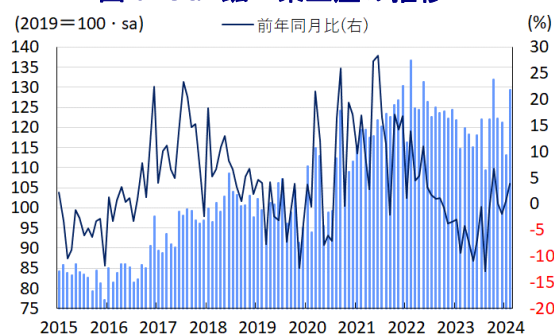
26日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+3.8%となり、前月（同+0.6%）から伸びが加速している。前月比も+14.24%と前月（同▲6.68%）から4ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちしている様子がうかがえる上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。同国においては、バイオ・医薬品関連の生産が月ごとに上下双方に振れるとともに、生産全体の動向を大きく左右する傾向があるなか、当月は前月比+16.25%と前月（同+11.41%）に続いて拡大していることが影響している。なお、バイオ・医薬品を除いたベースでも前月比+9.97%と前月（同▲7.75%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、精密機械関連の生産は力強さを欠く一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、化学製品関連などでの生産拡大の動きが生産全体を押し上げていることが影響している。

図5 SG インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図6 SG 鉱工業生産の推移

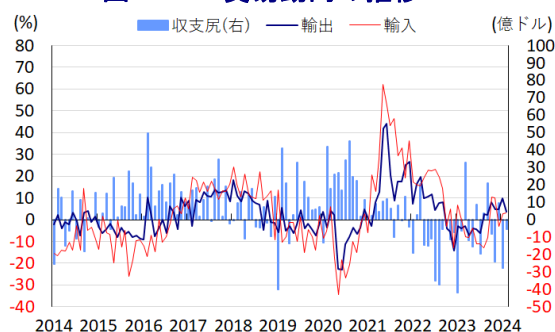


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[タイ]～鉱物資源関連や製造業関連の輸出は力強さを欠くも、コメなど農産品の堅調さが輸出全体を下支え～

26日に発表された2月の輸出額は前年同月比+3.6%となり、前月（同+10.0%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調は減少ペースに転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、鉱物資源関連や石油製品関連の輸出は頭打ちの動きを強めているほか、製造業関連の輸出も力強さを欠く一方、コメをはじめとする農産品関連の輸出の堅調さが輸出全体を下支えしている。一方の輸入額は前年同月比+3.2%となり、前月（同+2.6%）から伸びが加速している。前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。消費財関連のみならず、輸出が頭打ちの動きを強めていることを反映して中間財関連や資本財関連の輸入も頭打ちの動きを強めるなか、原油などエネルギー資源関連の輸入も大きく下振れするなど、全般的に頭打ちの様相を強めている。結果、貿易収支は▲5.54億ドルと前月（▲27.58億ドル）から赤字幅は縮小している。

図7 TH 貿易動向の推移

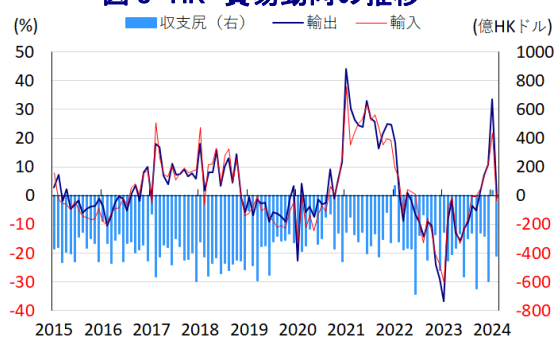


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～輸出入ともに底入れの動きが確認されるも、中国本土からの輸出入はともに下振れする展開が続く～

26日に発表された2月の輸出額は前年同月比▲0.8%となり、前月（同+33.6%）から5ヶ月ぶりに前捻を下回る伸びに転じている。しかし、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。国・地域別では、中国本土向けのほか、日本向け、欧州向けなどは力強さを欠く推移をみせる一方、米国向けやASEANなどアジア新興国向け、中東向けなどの堅調さが輸出全体を下支えする動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比▲1.8%となり、前月（同+21.7%）から5ヶ月ぶりに前捻を下回る伸びに転じている。前月比は2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせている上、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが続いている。国・地域別では、中国本土からの輸入は力強さを欠く推移が続いているほか、欧州からの輸入も下振れする展開をみせる一方、米国やASEANなどアジア新興国、中東などからの輸入の堅調さが輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は▲416.51億HKドルと前月（+36.43億HKドル）から2ヶ月ぶりの赤字に転じている。

図8 HK 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。